

# ベラルーシ公開情報取りまとめ

(11月10日～11月16日)

2020年11月19日  
在ベラルーシ大使館

## 【主な出来事】

●オストロヴェツ原発、変圧計測器の故障により発電機の稼働一時停止(11/10)

●11日、ペレメン広場において治安部隊が市民(ロマン・ボンダレンコ氏)を拘束、翌12日、同氏の死亡が確認された。(11/11,11/12)

●ルカシェンコ大統領、近隣国のメディアとのインタビュー(11/13)

## 内政・外交

### 【ルカシェンコ大統領動静】

●オルダ・ベラルーシ労働組合長と会談(11/10 大統領公式ホームページ)

両者は、労働組合員の退会、消費市場における価格形成の管理、住宅公共サービスの価格管理と品質の維持について協議した。またルカシェンコ大統領は、年末までに全ての企業(民間企業含む)が労働組合を組織するよう指示した。

●ミシュステン露首相と電話会談(11/10 大統領公式ホームページ)

両者は、経済分野における二国間関係、新型コロナウイルス対策について協議した。

●クルプコ農業・食糧大臣、スポーチン同省次官と会談(11/12 大統領公式ホームページ)

収穫期間の予定、農業分野の経済状況、収穫と供給の均衡(需要と供給のバランス)、ヴィテプスク州における原料加工農業コンビナートの状況、全ベラルーシ国民会議で議論される2021～2025年の農業分野の計画について協議した。

●近隣国のメディアとのインタビュー(11/13 大統領公式ホームページ)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

#### (1) 憲法改正

・私が「即座に」大統領の権限から辞退することはない。私はただ必要になった時に立ち去る。全ベラルーシ国民会議にて、憲法の採択や、その他の期限、

我々がどのように前進していくか、どのような条件で取り組むのか、公表する予定である。それら計画は、現在作成中であり、圧力の下で行われることはない。我々は、人々を捨て去ることはない。私は逃げようともしていない。

・憲法改正においては、バランスが大切である。70ある大統領権限の57は、現在の憲法で、他の国家机关に譲ることができる。しかし、どのようにそれらの権限を渡していくかが問題である。いくつかの権限について、国民は新年までにどうなるかわかるだろう。

・後継者の育成は検討していない。国民が選んだ者が大統領となる。

#### (2) 反体制派との対話

・国家安全保障委員会拘置所における反体制派との対話は、口外厳禁という前提で実施されたため詳細は述べない。

・「ベラルーシから脱出させて欲しい」と私に懇願したチハノフスカヤ氏と何を話せというのか。事前に子供をリトアニアに送り、自身もリトアニアへ出国した後、同氏はベラルーシに害悪をもたらしている。

・(チハノフスカヤ氏とは話すべき)議題がない。既にベラルーシ国内には抗議デモ参加者のみならず、野党勢力もいる。野党勢力とは拘置所で話した。「外に出て、何かしら組織化してほしい」と、数名を釈放した。そのうち、ヴォスクレセンスキーは数十名を組織し、政府との対話に参加した。彼らとは必ず会う。

・裏切り者やテロリストとどんな対話ができるというのか。彼らには私との対話は必要ない。彼らには、全体主義の砦である私を破壊することが必要なのだ。

我々は全てを乗り越える。彼らのマスクを剥ぎ取る。

(3) ロマン・ボンダレンコ氏(注:ベラルーシ治安部隊により殺害されたとされる一般市民)の死亡事案

・ご両親にお悔やみ申し上げます。人の死は悪いことであり、とりわけ若者であれば尚更だ。昨日、捜査委員会委員長に対し、誠実かつ客観的に捜査する必要があると指示した。本日(13日)朝、人々はいつものように警察を批判し始めた。だからこそ、検察総長に本刑事事件お呼び捜査を最大限慎重に取り扱うよう求めた。

・(扇動者は)当初チハノフスカヤ氏を神聖な犠牲者に仕立て上げようとしていたが、彼女は逃れることができた。扇動者は常に何かを見つけようとしている。そして、今回、この青年に決めたのである。

・12日、彼を除き、4名が事故や怪我、殺人により亡くなった。この4名について、なぜ誰も語らないのだ。5名亡くなって、なぜ彼の死だけ取り上げられるのか。彼の死を、政治に利用することは許されない。内務省に対し、同氏の両親と接触するよう指示した。

・私が受けている報告では、けんかがあり、双方酔っていた。通報を受けて警察が駆けつけたところ、同氏が倒れていた。搬送中気分が悪くなったため、病院に運ばれたとのことだ。

(4) ベラルーシ国内情勢への評価

大統領選挙後、ベラルーシ国内でカラー革命が発生している。カラー革命を扇動しているのは外国勢力であり、ベラルーシ国内に革命家は不在であるため、その革命は成功しない。

(5) 旧ソ連国への警告

ロシアやカザフスタン等の旧ソ連国にとって、ベラルーシで起きていることは教訓であり、同様の事態が起こりうる。様々な枠組みで結束し統合を深化することが、この問題に対する予防策となりうる。

(6) EU 制裁

EU の制裁は、国家と国民に忠実で、海外資産を持た

ない自分(ルカシェンコ)には効果がない。

(7) 対露関係

露マスコミは、ベラルーシ政権がロシアを裏切るかのような偏向報道を行っている。ベラルーシを失えばロシアにも脅威が押し寄せるが、NATO 寄りとなったベラルーシにも幸せはない。

(8) 対ウクライナ関係

昨今のゼレンスキー大統領の言動、制裁導入、マスメディアの放送内容は不快。ウクライナのベラルーシに対する経済依存度は高い。三者コンタクトグループ等の会談場所はミンスクであるべきであり、両国の友好関係は重要である。

●道路有料化に関する会議に出席(11/16 大統領公式ホームページ)

【外交】

●英国、駐英国ベラルーシ外交官 2 名をペルソナ・ノン・グラータに。

(11/10 ベラパン通信)

●ベラルーシ外務省、ナゴルノ・カラバフにおける停戦合意に歓迎の意を表明。

(11/10 ベラパン通信)

●在ベラルーシ EU 代表部、ボンダレンコ氏の死に関する声明を発表。(11/13 ベラパン通信)

声明の内容は以下の通り。

・我々は、31 歳のボンダレンコ氏の死に動揺し、深い悲しみを抱いている。同氏の死は、民主的な未来に向けた平和的な戦いにおける取り返しのつかない損失である。EU 代表部は、全ての平和的デモ参加者と連帯している。

●在ベラルーシ米国大使館、ボンダレンコ氏の死に関する声明を発表。(11/14 ベラパン通信)

声明の内容は以下の通り。

・米国は、11月12日に発生したボンダレンコ氏の死に衝撃を受け、動揺している。我々は、ベラルーシ政府に対し透明な捜査を実施し、同氏の死に罪を有する者への責任追及を求める。

・我々は、平和的なデモ参加者に対する継続的な暴力と圧力を批判する。これは現代社会において許されざることであり、早急に停止されるべきである。

#### 【経済】

●2020年1月～10月ベラルーシ貿易高、前年同期比17%減少

(11/10 ベラパン通信)

●ミンスク執行委員会、2020年1月～10月ミンスク市内の失業率が0.1%を下回ったと公表

(11/10 ベラパン通信)

●2020年10月、2019年12月対比インフレ率、5.4%

(11/10 ベラパン通信)

●オストロヴェツ原発、変圧計測器の故障により発電機の稼働一時停止。

(11/10 ベラパン通信)

●2020年1月～9月、対ベラルーシ外国直接投資額、前年同期比7億ドル減少。

(11/11 ベラパン通信)

●2020年1月～9月、欧州向け農作物・食糧品輸出量、前年同期比1.4倍に増加。

(11/13 ベラパン通信)

●2020年10月、工業製品価格、昨年12月対比、6.9%上昇。

(11/13 ベラパン通信)

●格付国際機関 Fitch、政治危機を背景にベラルーシ経済長期予測をネガティブへ下方修正。

(11/14 ベラパン通信)

●ヤンチェフスキ・ベラルーシ IT 産業特区「ハイテクパーク」事務局長、ジューク駐ベラルーシ米臨代と会談し、IT 分野における米国・ベラルーシの相互協力の強化に関し議論した。

(11/16 ベラパン通信)

●2020年1月～10月、ベラルーシ GDP、前年同期比1.1%減少

(11/16 ベラパン通信)

●2020年1月～10月、ベラルーシ産業生産高、前年同期比1.2%減少

(11/16 ベラパン通信)

#### 【内政】

●チェマダノヴァ内務省報道官、抗議運動に関しテレグラム・チャンネルで声明を発表。

(11/16 ベラパン通信)

声明の内容は以下の通り。

・11月15日、ベラルーシ国内35カ所で抗議運動が発生した。

・参加者は減少し、抗議運動の活発度合いも落ちている。内務省は、無許可集会における治安維持と社会安全保障のため必要な措置を実施している。

・15日、大規模集会に関する法律違反により、700名超を拘束した。内務省職員に対する抵抗や交通封鎖の事実により刑法の枠組みにおける取り調べが行われている。

#### 【抗議勢力側の動き】

●チハノフスカヤ元候補、ヴェロニカ・ツェプカロ(ツェプカロ元候補の配偶者)、欧州議会女性の権利・ジェンダー平等委員会、欧州議会ベラルーシ関係団体との共同会議に参加。政権から圧力を受けるベラルーシ国民のための支援基金の創設意向を表明。

(11/12 ベラパン通信)

●11日、ペレメン広場において治安部隊が市民(口

マン・ボンダレンコ氏)を拘束、翌 12 日、同氏の死亡が確認された。(11/12 ベラパン通信)

(11/16 ベラパン通信)

(了)

●ボンダレンコ氏の死を受け、一連の抗議運動が発生。

(1) 12日深夜、数百名がボンダレンコ氏の追悼のためペレメン広場に集結した。

(2) 13日、ベラルーシ全土で同氏追悼のため国民が街頭に出て、手を上げて連帯を示した。プレスト市では7名が逮捕され、モギリョフ市では数十名の特殊部隊が出動した。

(3) 14日、ベラルーシ全土で、局所的に同様の連帯表明が行われた。治安部隊がマイクロバスで巡回し幾つかの場所で拘束が発生した。

(4) 15日、数千名がペレメン広場に集結した。同日午後モバイルインターネットは遮断され、市内地下鉄の15駅が一時閉鎖された。治安部隊は同広場に集結した市民に対し、発光弾を使用した。他都市でも同様の連帯運動が発生した。人権センターによれば、拘束者は、1127名とされる。

●チハノフスカヤ元候補、ボンダレンコ氏に連帯を示す抗議運動とそれに対する治安部隊の対応に関し、言及。

(11/15 ベラパン通信)

・ボンダレンコ氏追悼の行進では、ベラルーシ全国が街頭に出た。ペレメン広場は、小さな子供用遊具付きの広場であるが、恐怖政治と現政権についての永遠の記憶の場所となった。

・全治安部隊員は、国民が彼らを恐れず、敬意を表さず、静かに憎んでいれば、嫌に感じるだろう。我々は国民に対する犯罪の証拠を集め、国民裁判の準備をしていく。

●チハノフスカヤ元候補、在リトアニア欧州各国大使(デンマーク、オランダ、スウェーデン、カナダ、アイルランド、北欧理事会代表)と会談し、ベラルーシ国内における治安部隊による暴力の過激化に対する制裁強化について協議。